

秘密の小径を通ってやってくる



メディスン・インフラ  
Medicine Infrastructure

2024.7.13sat-9.29sun

Tomoko Konoike

鴻池朋子展

青森県立美術館 ㊦  
AOMORI MUSEUM OF ART

プレスリリース  
PRESS RELEASE

## 秘密の小径を歩いてやってくるー

鴻池朋子の身体は東日本大震災以降、地球の振動を新たな画材と感じ、旅をしては野外の技法を習得し、時に土木工事や縫いものをメディアに「絵」を描いてきました。

昨年より東北でスタートした《メディスン・インフラ（薬の道）》は、鴻池が各地を巡り、縁のあった場所に自作を展示保管してもらう長期的なプロジェクトで、その活動は福島、岩手、北海道へと少しずつ広がってきています。現在も能登半島地震の被災地の仮設住宅に設置されるカーテン作品を制作中ですが、その住宅も大切な場の一つとなることでしょう。

今回、移動する動物のごとき鴻池から「地図帳やランドマーク」の役目を託された青森県立美術館。そこには新作や現地レポートを通じて、観客に鴻池の軌跡をリレーする充実した中継ぎ役が求められているようです。「作家やアーティストのようにメッセージや問いを投げかけるのではなく、後はもう自分の体しかない、というギリギリのところまで連れだしたい」と語る鴻池。観客の体はその場に晒された時、アートが人間の本能的なものに向けて、豊かに染み渡るメディスン（薬草）のように機能していくのではないのでしょうか。

展覧会名 鴻池朋子展 メディスン・インフラ

会 期 2024.7.13(土) - 9.29(日)

会 場 青森県立美術館とその周辺野外、国立療養所松丘保養園 社会交流会館

開館時間 [美術館] 9:30-17:00(入館は16:30まで) [社会交流開館] 10:00-16:00

休 館 日 [美術館] 7.22(月), 8.13(火), 8.26(月), 9.9(月), 9.24(火) [社会交流会館] 毎週月曜日

観 覧 料 [美術館] 一般1,500(1,300)円, 高大生1,000(800)円, 中学生以下無料 [社会交流会館] 無料

セット券 鴻池朋子展+AOMORI GOKAN アートフェス2024 かさなりとまじわり

一般2,000円 高大生1,200円 小中学生100円

※( )内は20名以上の団体料金。

※[~9月1日] AOMORI GOKAN アートフェス2024 公式ガイドブック特典「スタンプラリー&パスポート」割引料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料。

※セット券に団体割引はございません。また他の割引との併用はできませんのでご了承ください。

主 催 鴻池朋子展実行委員会(青森県立美術館、青森朝日放送、青森県観光国際交流機構)

後 援 青森ケーブルテレビ、エフエム青森、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会、  
青森市教育委員会

協 力 ハンズクラフト秋田

## 見どころ

### (1) 現代アートシーンを代表するアーティスト・鴻池朋子の新作の数々

北東北（秋田）出身／現代アートシーンを代表するアーティスト・鴻池朋子の新作を紹介する個展形式の展覧会。地球の振動をも画材と捉える鴻池にとって「絵」とは単に絵画に留まりません。パブリックアートやアートプロジェクトも「絵」の一部です。本展では震災以降世界各地で今この瞬間も続くプロジェクト展開をもとにつくられる圧倒的なスケールの作品や味わい深い指人形といった新作の数々を紹介します。場所と呼応し、人間社会はもとより動物や自然界との交流の中でなされる鴻池のつくる営みそのものたる本展。そこは鴻池の生の軌跡を鑑賞者の身体に豊かに染み渡らせ、一人ひとりの感覚を更新させることでしょう。



1



2

### (2) 個展の枠も美術館の壁を飛び越え、世界の「いま」と呼応するアート展開

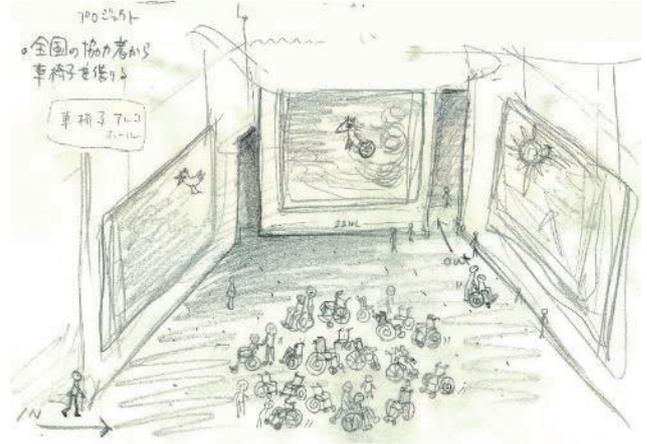
続く地球の振動、混迷の一途をたどる社会情勢。そのような中で生まれた、ウクライナやバルカン半島に思いを馳せながら縫われたカーテンを能登半島地震における被災者住宅を設置するプロジェクトや 2015-16年には青森の人々も参加し自らの思い出を縫った「物語るテーブルランナー」での制作物、美術館・アレコホールに集められた全国の美術館を展示使用し、列島を覆うネットワーク・インフラの使いなおしを試みる「車椅子アレコバレー」、鴻池作品を素材に研究活動をおこなう研究者が自らの展開を紹介するアトラボ「新しい先生は毎回生まれる」など、従来の作品構造、制度的枠組みを軽々と飛びこえ、そこからの抜け道を探すかのような鴻池の作品展開。それらは、社会と地球の「いま」と呼応しながら広がり、アートという個人的営みのもつ可能性を拡張していきます。



3



4



### (3) 国立療養所松丘保養園 社会交流会館も会場に！

本展サテライト会場として、美術館にほど近い緑豊かな森の中に位置する国のハンセン病療養施設である松丘保養園社会交流会館にも作品が展示されます。鴻池は 2019 年「瀬戸内国際芸術祭」の招へいを受け、国立療養所大島青松園を訪れました。以後も熊本の国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」メンバーによる作品群を大島に持ち込み、美術館での個展会場内で巡回展示する活動を行うなど、ハンセン病療養所や施設から生まれた作品との関わりが続いています。そのような鴻池の活動は、歴史や制度の枠組みからの抜け道を探し、私たち一人ひとりが息づくための生の気道を確保する営みといえるかもしれません。鴻池作品以外にも入居者・成瀬豊や成瀬と縁のある熊本は菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の作品約 30 点、保養園近隣の新城中学校美術部生徒らとのプロジェクト展開、梵珠山六角堂休憩所に設置する予定で新城中学校美術部員、北中学校総合文化部員とが《美術館ロッジプロジェクト》の中で制作した皮絵などが加わり、構成される地域とその施設に根ざした今回のサテライト展示からは、私たち一人ひとりが異なる大切な身体をもつ存在であることが浮かび上がってきます。



5

## 展示内容

**県立美術館** 続く地球の振動＝鴻池の動物的センサーが捉え、そしてつくる営みを様ざまに紹介します。全国の美術館から車椅子を借り受けアレコホールで展示使用することを通じて列島を覆う美術館のネットワーク・インフラをいなおそうとする「車椅子アレコバレエ」。身体と場所の間を繕う「物語るテーブルランナー」、「カーテンプロジェクト」。15組の方々が鴻池作品と共に遊び、研究や作品を発表するプロジェクトラボ「新しい先生は毎回生まれる」。そして大量の難民のような「指人形」が私たちを誘導します。随所で発生する「竜巻パラソル」に巻き込まれ、すっかりと換気された私たちは、やがて生まれたての体で松丘保養園へと降り立つでしょう。

[住所] 青森市安田字近野 185

- JR 新青森駅から車で約 10 分、徒歩約 40 分 ○青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分 ○東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- [八戸方面から] 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 青森市営バス青森駅前（6 番のりば）「三内丸山遺跡行き」乗車～「県立美術館前」下車（所要時間約 20 分）
- ルートバスねぶたん号 JR 新青森駅東口（3 番のりば）乗車～「県立美術館前」下車（所要時間約 10 分）

**社会交流会館** 美術館と梵珠山の間、緑豊かな地にある松丘保養園は国のハンセン病隔離政策により 1909 年に創立されました。松丘の成瀬豊（菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」発足メンバー）の作品と金陽会作品約 30 点が再び交わるほか、鴻池の《物語るテーブルランナー in 大島青松園》、新城中学校美術部や北中学校総合文化部員とが《美術館ロジ》で制作した梵珠山 六角堂休憩所の皮絵、木下直之によるノート公開やお話、山川冬樹のライブパフォーマンスなど、療養所から今も生み出される創作の数々をご紹介します。

[住所] 青森市石江字平山 19

- JR 新青森駅から車で約 5 分、徒歩約 15 分
- 青森市営バス新青森駅南口から「西部営業所行き」乗車～「松丘保養園前」下車、徒歩約 7 分（合計所要時間約 10 分）
- 青森県立美術館から車で約 10 分

## 関連企画

**県立美術館** いずれも参加無料（ただし企画展チケットが必要です）／事前申込不要

- (1) 旅する学芸員と指人形一座 7 月 13 日（土）10:00-12:00 ファシリテーター | 石田智子・福田千恵（高松市美術館）
- (2) オープニングトーク 7 月 13 日（土）13:30-15:30 出演 | 指人形、鴻池朋子、奥脇嵩大（本展担当学芸員）
- (3) 筆談ダンス 8 月 10 日（土）10:30-12:00 出演 | 木下知威（歴史家／障害史・建築学）、鴻池朋子
- (4) 真夏の間トーク 8 月 24 日（土）10:30-12:00 出演 | 指人形、鴻池朋子、奥脇嵩大

**社会交流会館** いずれも参加無料／事前申込不要

- (1) 115 回目の夏 8 月 24 日（土）15:00-17:00  
山川冬樹（アーティスト）と鴻池朋子が講話、朗読、ライブパフォーマンスを行います。
- (2) お話 8 月 25 日（日）10:00-12:00  
「金陽会と旅をして」藏座江美（旅するキュレーター）  
「このいけともこと旅をして」木下直之（静岡県立美術館館長）、両者お話後、鴻池朋子を交えて鼎談

**8月の逗留執筆** 木下知威が県立美術館と社会交流会館で随時公開執筆と筆談をいたします。

8 月 10 日（土）-18 日（日）

そのほかの詳細は美術館 Web ページにて随時告知します→ <https://www.aomori-museum.jp/schedule/13464/>

## 作家略歴

鴻池朋子（こうのいけ・ともこ）

絵画、彫刻、手芸、歌、映像、絵本など様々な画材とメディアを用い、また旅での移動や野外でのサイトスペシフィックな活動によって、芸術の根源的な問い直しを続けている。主な個展：2009年「インタートラベラー神話と遊ぶ人」東京オペラシティギャラリー、2015年「根源的暴力」神奈川県民ホール、群馬県立近代美術館／芸術選奨文部科学大臣賞、2018年「Fur Story」リーズ芸術大学、「ハンターギャザラー」秋田県立近代美術館、2020年「ちゅうがえり」アーティゾン美術館／毎日芸術賞受賞、2022年「みる誕生」高松市美術館、静岡県立美術館／紫綬褒章受賞など。グループ展：2016年「Temporal Turn」スペンサー美術館・カンザス大学自然史博物館、2017年「Japan-Spirits of Nature」ノルディックアクバラル美術館、2018年「ECHOES FROM THE PAST」シンカ美術館、2022年「Story-makers」シドニー日本文化センター、瀬戸内国際芸術祭など。著書に絵本『みみお』（青幻舎）、『どうぶつのことば』、絵本『焚書 World of Wonder』（羽鳥書店）など。



## プレス向け内覧会

日時 | 7月12日(金) 14:00～14:45 / 集合 | 美術館1階エレベーター前受付

内覧会冒頭では作家による挨拶を予定しています。なお15:00～17:00のゲスト向け内覧会では美術館に加え、社会交流会館もご案内する予定です。プレス向け内覧会に参加ご希望の方は前日11日までに下記の電話やメールにてお知らせください。

## 図版提供

### 制作風景の図版のご提供

本リリース掲載図版中「番号がついているもの」をデータでご提供します。下記の電話やメールで図版番号をお知らせください。

[画像貸出条件]

- 1 画像クレジットは全て右記：制作中の風景 ©Tomoko Konoike
- 2 画像は、本展広報以外の目的で使用しないでください。
- 3 画像データを第三者に渡すことはできません。使用后、データは消去してください。
- 4 作品画像は全図で使用してください。部分掲載やトリミングはできません。
- 5 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記入ください。
- 6 掲載、放送の際には事前確認のため、グラ、掲載誌(紙)または映像のご提供をお願いいたします。
- 7 掲載誌(紙)は、下記広報担当あてに一部ご寄贈ください。Webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。

本件についてのお問い合わせ先 | 鴻池朋子展実行委員会（青森県立美術館内）

[広報担当] 櫻庭、奥脇 TEL017-783-3000 bijutsukan@pref.aomori.lg.jp